

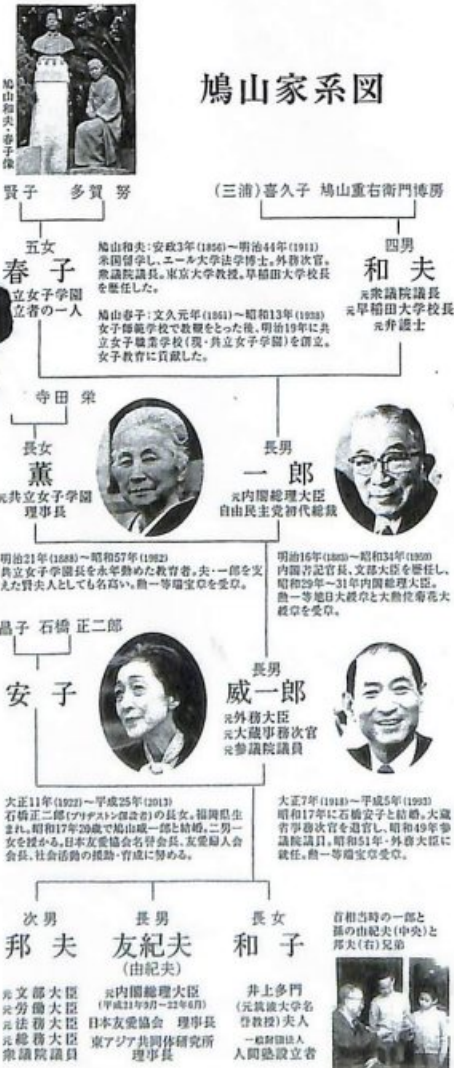
# 細川熊本藩下屋敷庭園と江戸川公園

平成31年4月17日

山岸弘明

### 本日の主要行程

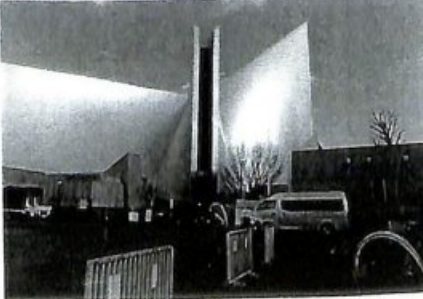
- 10時00分
  - 10時15分～11時15分
  - 11時30分～12時00分
  - 12時15分～12時45分
  - 13時10分～14時00分
  - 14時20分～15時20分
  - 15時30分～16時10分
  - 16時30分ころ
- ①地下鉄有楽町線・江戸川橋駅改札口集合 A1番出口
  - ②鳩山会館（和夫、一郎、威一郎、由岐夫。鳩山家4代住居）  
（バラとステントグラスの洋館）
  - ③関口台公園（昼食）
  - ④東京カテドラル聖マリア大聖堂（カトリック東京大司教区教会）
  - ⑤蕉雨園（田中光顕邸）、⑥永青文庫（細川家収蔵館）
  - ⑦新江戸川公園（細川熊本藩下屋敷庭園）
  - ⑧水神社、⑨胸突き坂
  - ⑩関口の芭蕉庵、⑪椿山荘庭園（山県有朋公爵邸）
  - ⑫神田川、⑬関口大洗堰跡、⑭江戸川公園
  - ①江戸川橋駅着解散



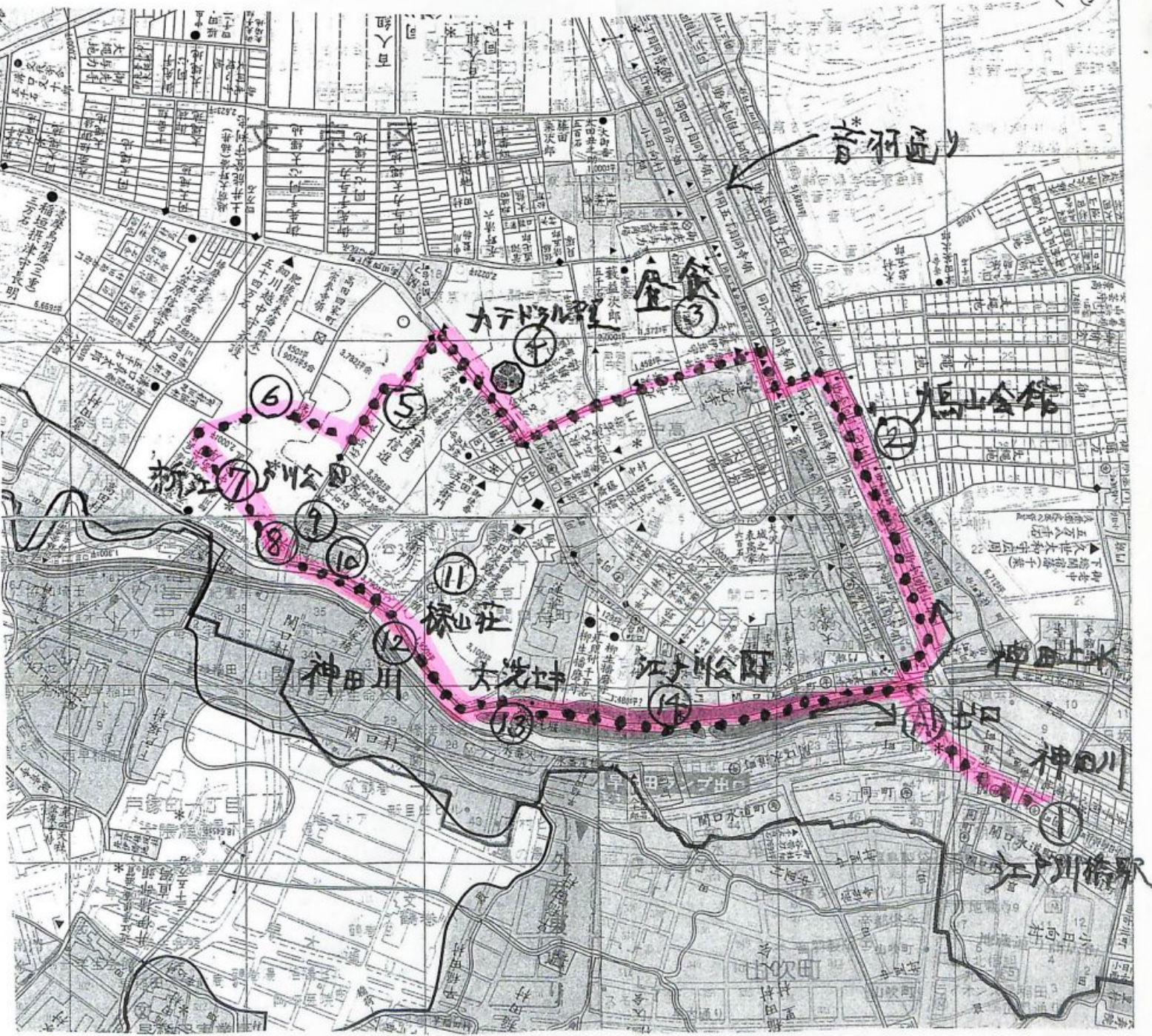
鳩山会館



関口台公園



東京カテドラル大聖堂



本日のご案内コース

当面のスケジュール（詳細は会報を参照ください）

5月定例会＝10日（金曜日）千葉方面現地観光バス  
JR内房線五井駅改札口9時10分集合、20分出発  
（東京からは総武線快速君津行き、品川③番線7時50分、東京地下④番線  
8時00分発、千葉④番線8時41分発、五井9時01分着が便利です）

\*チバニアン（地質時代、77万年前の地磁気逆転地層＝国天然記念物）  
大多喜城（中世正木氏、豊臣時代本多忠勝10万石、江戸時代松平家2万石居城）  
万木城（中世千葉氏系土岐氏居城→小田原征伐後廃城）  
一の宮城→一の宮陣屋（中世正木氏居城＝里見、北条氏争奪地→一旦廃城→  
江戸後期加納氏1万3000石陣屋）  
一の宮台場跡（幕末、太平洋に向けた一の宮藩の海防砲台）

\*17時ころ五井駅解散（下見により一部コースを変更することがあります）

6月定例会＝6日（木曜日）向島界隈を歩く  
7月 休会  
8月定例会＝夏季研修会（日付抽選待ち）



# 江戸情緒伝える静かな回遊式下屋敷庭園

## ～永青文庫と新江戸川公園～

### 1) 鳩山会館から東京カテドラル聖マリア大聖堂へ

#### ①～④午前の見学地、江戸後期と明治の居住者

音羽通り=将軍綱吉が建立した護国寺門前町兼御成り道。通り名は拝領した大奥女中に由来

鳩山会館=江戸中後期は大縄地。御家人居住地。明治16年は畑地

蓮光寺=現在に至る

首都高速5号池袋線高架下パークロード600=旧無名?小川、江戸川橋で神田上水に合流

関口台公園=斉藤伊豆守抱え屋敷(中奥小姓5千石)。明治16年は空き地

東京カテドラル大聖堂=松平大炊頭頼徳上屋敷(水戸徳川家支藩、常陸宍戸1万石)

明治16年は一柳邸(前播磨小野1万石=17年子爵)

#### ⑤蕉雨園(関口2-11-17)

椿山荘に屋敷を構えた山県有朋の無二の親友であった宮内大臣・田中光顕が明治30年造営。唐破風玄関、和様の豪壮な邸宅と庭園。台湾の檜、屋久島の杉を使用した木造家屋は「目白御殿」と呼ばれた。大正8年渡辺銀行頭取、昭和7年に講談社野間社長の所有と変った。

### 2) 幽斎(藤孝)、三斎(忠興)に始まる武家の名門～細川家下屋敷庭園

\*細川家は足利将軍家代々重臣の家柄である。足利尊氏の南北朝時代、北朝・室町幕府方として活躍、畿内を中心に8か国の守護職を占めた。頼之は管領として3代将軍義満をよく補佐し、嫡流が代々管領に任じられた。「応仁の乱」では勝元が東軍総帥となり、戦国時代始め政材は将軍義材を退けて幕府の実権を掌握したが、跡目争いを契機に一族は衰退していった。

\*細川藤孝(幽斎)は12代将軍・足利義晴の実子で、細川家の有力支族元常の養子に迎えられた。16歳の初陣から戦乱に明け暮れ、生涯54度の実戦を体験した。足利家最後の将軍義昭をたすけ、織田信長の信頼を得て各地に転戦した。母の実家清原家で幼少期を過ごした影響で学問に通じ、歌人としても知られた。

\*その子忠興(三斎)は始め信長に仕え、死後、豊臣秀吉に与した。その側近・石田三成と対立、関ヶ原の戦いは家康の先鋒として勝機をつかみ、その功績で小倉30万石に封じられた。百般の世務に通じ茶道にも堪能であった。忠興夫人はガラシャで、大坂城外の屋敷を三成軍に囲まれたとき、忠興の命を守って屋敷に火を放って自刃した。

\*2代忠利のとき加藤清正の熊本54万石に榮進、子孫は連綿とこれを守り14代護久の明治2年に版籍を奉還した。明治17年公爵、18代護熙は熊本県知事から政界に転じ、平成5年社会党、新生党、日本新党などの連立政権で内閣総理大臣となった。



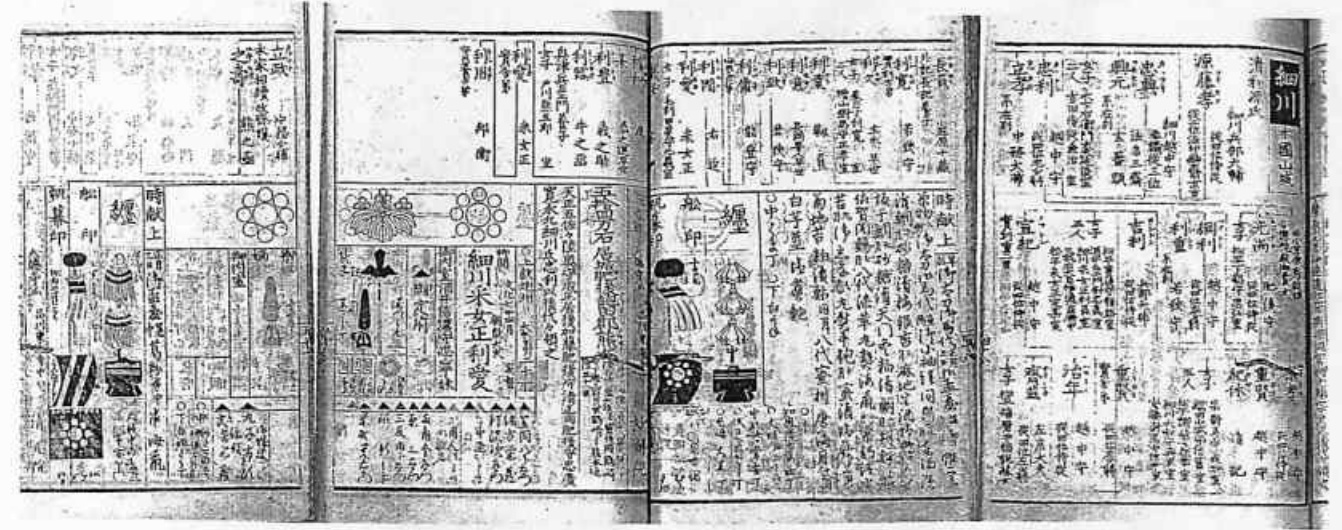
細川藤孝



細川忠興



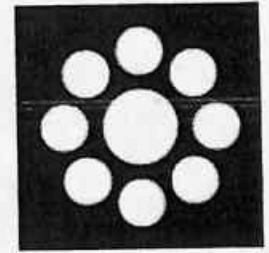
細川忠利



「文武両道」に於ける細川熊本藩



岩中洛外因々細川邸



細川家の丸七紋

慶長六年(一六〇一)、室町時代に築かれた千早城や隈本城のあった茶臼山一帯に、加藤清正が築城、慶長十二年(一六〇七)に完成した。最高所にある本丸には大天守や小天守を建て、各曲輪には宇土櫓をはじめ、三重天守に匹敵する五層櫓を五基も建て並べた。加藤氏改易後は細川氏が入り、明治維新を迎えた。明治一〇年(一八七七)の西南戦争では城内に籠もった新政府軍を西郷軍が攻めたが落城せず、城の強固さは証明されたが、本丸の大部分が焼失、しかしなお宇土櫓は二基の櫓が現存。清正流と称される高石垣もほぼ完全な姿で今に残る。大天守と小天守は昭和五年(一九六〇)に再建された。現在、西出丸の櫓や門が復元され、また平成一〇年、本丸御殿の復元も完成した。



●長岡 城の外壁をなす坪井川沿いに約240mにわたって残る。



●宇土櫓 巨大な城壁に飾られた五層櫓。大天守、小天守に次ぐ「第三の天守」とも呼ばれる。



●大天守と小天守 鐘楼型の巨大天守。小天守をともなう清正流石垣上に建つ。

主な遺構と見どころ ●宇土櫓・北十八間櫓・東十八間櫓など櫓多数、不開門、長塀、石垣、堀 ●現存建物、再建建物、石垣など見どころには事欠かないが、直線的な城壁が特徴的な宇土櫓と、その櫓台石垣の反り立つ姿は壮麗の一景である

別名	熊古城【ぎんなんじょう】
所在地	〒860-0002 熊本県熊本市本丸1-1
連絡先電話	096-352-5900
城址種類	平山城
築城年代	慶長6年(1601)
築城者	加藤清正
主要城主	加藤氏、細川氏
文化財区分	重要文化財13件
近隣の主要観光地	平成11年から南大手門、戌亥櫓、西大手門、元太鼓櫓、未申櫓、飯田丸五層櫓を復元。平成15年から本丸御殿大広間の復元を始め、平成20年に完成
天守の構造・形態	望楼型 三重六層地下一階 鉄筋コンクリート造(再建)
主な関連施設	旧細川閣部、熊本市立熊本博物館
備註	熊本市立熊本博物館は本館と分館に分かれている。本館では熊本城や加藤氏・細川氏関係の歴史資料など、大天守内にある分館では、熊本城と城下町のジオラマや加藤清正の築城資料などが展示されている

92 熊本城

加藤清正が築いた鉄壁の守りを誇った大城郭



\*細川熊本藩の江戸屋敷

辰の口上屋敷(歴代藩主、家族居屋敷、藩庁窓口)慶長8年忠興拝領、明治4年上がる。跡地は陸軍歩兵連隊をへてJR本社ビルなどに変遷した) =千代田区丸の内1-9、10、駅前通路、北口バス降車場。1万0869坪

高輪中屋敷(隠居、世子屋敷=元禄15年赤穂浪士討ち入り事件で大石良雄らを預かる) =港区高輪1-7~16 現在高松宮邸、都営住宅、高松中学校、義士忠烈の跡碑。2万5000坪

戸越下屋敷(別荘、緊急用屋敷)寛文2年支藩拝領、差し替え。現在戸越公園。2万6109坪

下屋敷=中央区日本橋兜町14 現在坂本町公園。2858坪

浜町下屋敷=中央区日本橋浜町2-59、現在浜町公園

目白台下屋敷兼抱え屋敷、町屋敷=文京区目白台1-1-1、新江戸川公園(後出)

ほかに抱え屋敷、町屋敷

⑥永青文庫(目白台1-1-1)

元細川藩下屋敷の高台に立地。昭和25年、細川家伝来の文化財とコレクション5千点を収蔵する「永青文庫」として開館、随時展示公開、毎回貴重文化財が展示されるが、きょうは展示替え準備のため休館中。敷地を通り抜けて新江戸川公園へ下りる。

⑦新江戸川公園(目白台1-1-1、文京区立公園)

幕末弘化3年?以降の熊本54万石下屋敷+抱え屋敷。上、中、下屋敷は拝領屋敷で、抱え屋敷は私的に買い上げた土地をいう。総敷地面積は1万3034坪、内訳は拝領屋敷3782坪、抱え屋敷7895坪、町並屋敷1357坪であった。明治15年細川家が本邸としたが、戦後所有者が変わり、昭和35年東京都に買収され、翌36年都立公園として開園、現在は文京区立公園となっている。

\*旧下屋敷の高台にある永青文庫から、胸付き坂を回避した連絡坂道をゆっくりと下りる。

斜面は檜、シイなどの常緑樹が茂る。所々、木々の間からひょうたん池を俯瞰、途中、台地からの湧水を集めた遣り水が流れ、2つの滝が勢いよい音を立てて池に導く。

\*庭園の中心は細長いひょうたん池、池には2つの出島を設けて変化を作り、護岸は土と乱杭をめぐらせている。

\*季節ごと、池面に大きく枝を伸ばした桜とされ柳、花ショウブと秋の紅葉が見事で、優美な池泉の水面に映えて美しい。

\*やり水脇の児童遊園地で一休憩。希望者は松声閣館を見学。明治20年細川家勉強所として建築。一帯はかつて下屋敷御殿、明治以降の細川本邸にあたる。

\*池泉を回遊しながらひょうたん池のそり橋付近で全景を見上げる。低面に池泉、南の斜面は深い木立になっている。地形を巧みに利用した作庭の見事さを改めて確認する。



新江戸川公園の配図



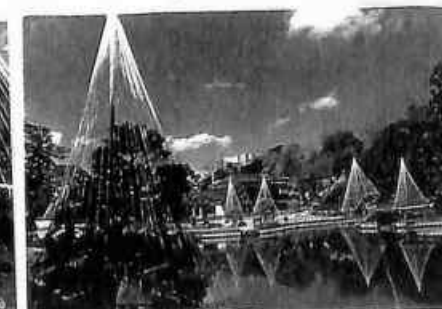
永青文庫



斜面の緑



松声閣



ひょうたん池の雪

徳川家康が作ったわが国最初の上水道

~大洗堰で水位を上げて城下に給水~

1) 椿山荘は明治元勳・山県有朋趣味の池泉回遊式庭園

⑧水神社(目白台1-1-9)

神田上水の守護神とされる。伝承によれば八幡宮宮司の夢枕にたった水神が「堰の守護神となり、江戸町ことごとく安泰なり」と告げたのが起こりという。神田上水の恩恵に預かった神田、日本橋方面の参詣者や風光よく訪れる人が多かった。境内にいちよう古木や庚申塔がある。

⑨胸突坂(目白台1丁目と関口2丁目間の急坂)

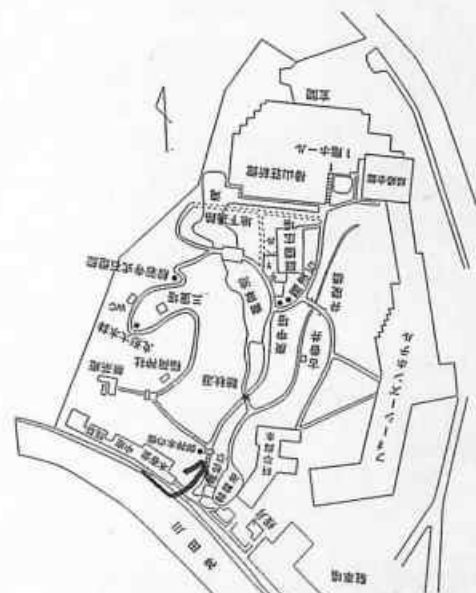
坂がけわしく自分の胸を土につくようにして上がれないことから名づけられた。ぬかるんだ雨の日や凍りついた冬の日を上り下りした往時の苦勞がしのばれる。

⑩関口の芭蕉庵(関口2-11-3)

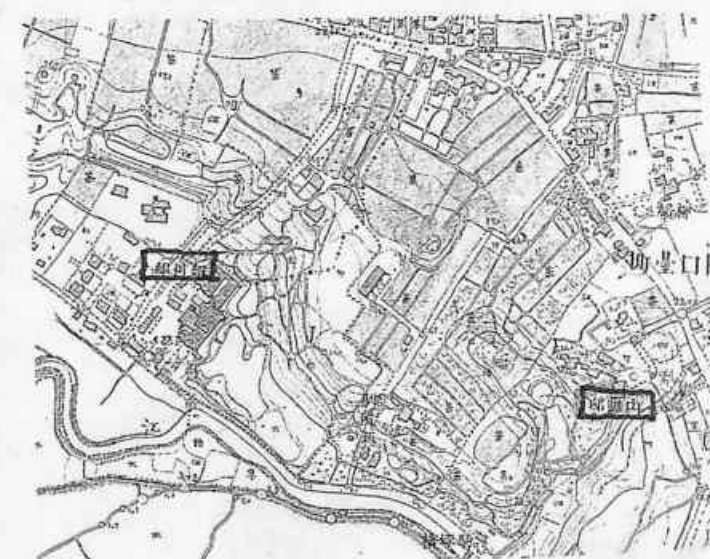
俳人・松尾芭蕉が2度目の江戸入りの後、延宝5年から3年間住んだ。芭蕉の主筋にあたる藤堂家が神田上水の修理を担当、これに参加した芭蕉は工事現場か水番所で生活したとされる。芭蕉を慕う門人たちによって建てられた家がのち「関口の芭蕉庵」と呼ばれた。

⑪椿山荘庭園(関口2-11-17)

江戸時代の上総久留里3万石、黒田藩中屋敷跡。明治になって旧長州藩の明治元勳、山形有朋邸となり「椿山荘」と呼ばれた。むかし椿が多く、椿山と呼ばれたことに由来した。山県は維新後総理大臣、また元老として勢力を振るい、伯爵、侯爵をへて公爵に進んだ。大正時代藤田平太郎が買い取り、現在はフォーシーズンホテル、結婚式場、レストラン、料亭として栄えている。台地と谷の起伏を巧みに利用し、二段の池を配している。自由見学。集合時間厳守のこと。



椿山荘の配図



明治16年の細川町と山県邸



水神社



椿山荘



山県有朋趣味の池



## 2) 江戸市民の上水道を支えた神田上水

### ⑫神田川 (旧江戸川)

江戸時代は御留川で禁漁であった。明治以降、外堀までを江戸川と呼んだが、昭和40年「河川法」の改定で水源から一貫して神田川となった。明治17年ころ西江戸川町の人々が自宅前の土手に桜の木を植えた。それがもとで石切橋から大曲まで約500mの両側に吉野桜、八重桜が植えられ桜の名所になった。大正2年の護岸工事で桜が切られたが、戦後吉野桜で復活、ことしも賑わった。区内唯一の開渠の川。

### ⑬関口大洗い堰 (大滝橋付近=文京区指定史跡)

徳川家康の江戸入り直後、大久保主水に命じて開削したわが国最初の上水道。井の頭池の流れに善福寺池、妙正寺池を落合で合わせ、目白台下の関口で水を取り入れたのが神田上水のおこりである。大滝橋付近に堰を作って水位を上げ、上水路で水を流して水戸屋敷 (現在の後楽園一帯) に入れ、それから木の樋、石の樋で地下を通し、神田橋付近で二筋に分け、一方は内堀内に大名屋敷、もう一方は本町方面、日本橋で北の町屋に給水した。飲料水としての利用は明治34年まで、その後砲兵工廠用水とされたが、昭和8年に廃止された。

### ⑭神田上水取水口大洗堰跡

### ⑮神田上水取水口の石柱

### ⑯大洗堰の由来碑について

### ⑰大井玄洞の胸像

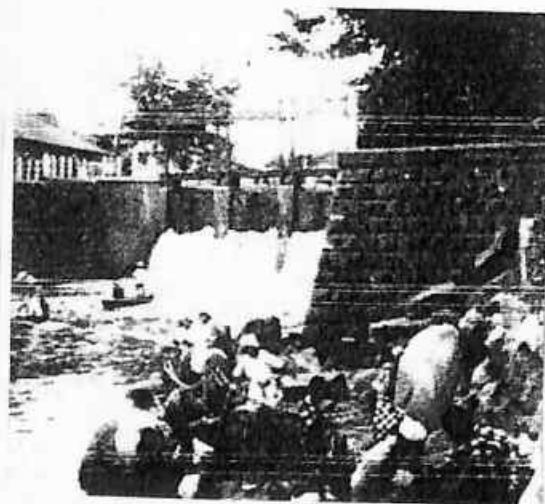
洪水が多かった江戸川で、大正時代、護岸工事を完成させた治水貢献者。

### ⑱江戸川橋駅に戻って解散。

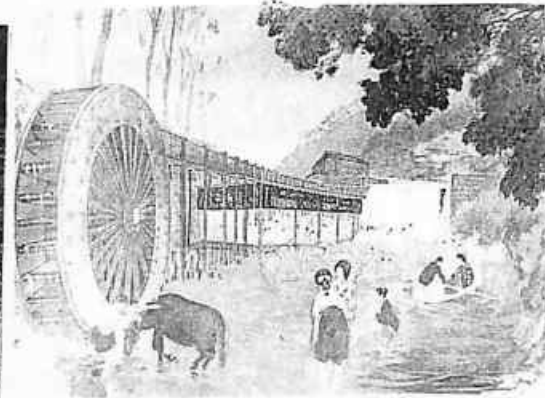
以上



「東京石所四十八」か



昭和時代の  
大洗堰



明治末の大洗堰



大井玄洞像



下見の時々の桜



江戸川公園



大滝橋



江戸川橋交差点



3/19  
in  
鎌ヶ谷  
参加  
千名

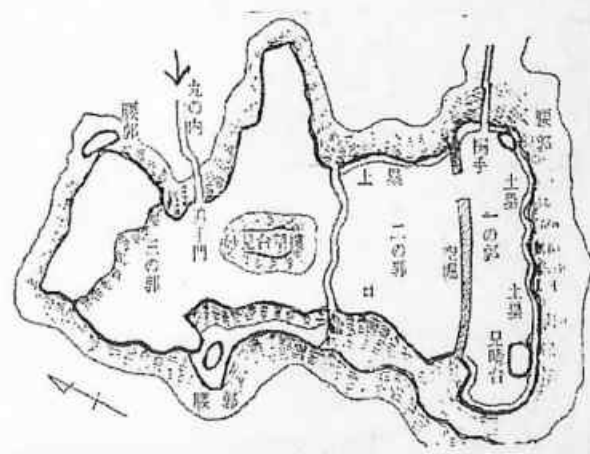


## 3月定例会ALBUM

下総小金牧跡、佐津間城址、鎌ヶ谷郷土資料館  
～鎌ヶ谷市の史跡を歩く～  
特別講師=立野晃先生<鎌ヶ谷市郷土資料館長>



## 5月定例会



万木城



一宮降屋



チバニオン  
5月10日



双地バス  
研修会



大多喜城





**(1) 鳩山会館** 文京区音羽1-7-1

◆「鳩山会館」 昭和30年代に総理を努めた鳩山一郎の邸宅を記念館として一般に公開したもの。「音羽御殿」の通称で知られ、戦後政治史の舞台の一つに数えられる。

「高度成長への転換点となった保守合同を成し遂げたのが鳩山一郎であり、この館に多くの同志が結集して実現した。また、鳩山一郎が唱えた『友愛』の精神はこの地で生まれ、今もなおその理念が生き続けています」(現・館長 鳩山友紀夫)

◆屋内 1階の大広間・サンルーム。2階の一郎記念室・薫記念室・威一郎記念室・第一応接室・第二応接室・特別展示室などが公開されている。

◆この洋館を建てたのは 鳩山一郎 (設計は一郎の友人・岡田信一郎)。大正13年(1924)。さらに平成7年(1995)、大改修を行い、建設当時の面影を再現して生まれ変わった。

大正ロマンの薫る建物と、ハトと五重の塔をモチーフとするステンドグラス(工芸家・小川三知作)、屋根には「叡知」の象徴であるミミズク。朝倉文夫作の和夫・春子夫妻像、有名人の名前をつけたバラ園などは、庭園とマッチして見事である。

◆鳩山家履歴	和夫	博房・4男	衆議院議長。早稲田大学校長
	春子	和夫・夫人	共立女子学園創立者の一人
	一郎	和夫・長男	文部大臣、総理大臣、自由民主党初代総裁
	薫	一郎・夫人	共立女子学園理事長
	威一郎	一郎・長男	外務大臣、大蔵事務次官、参議院議員
	安子	威一郎・夫人	ブリヂストン創設者の長女
	和子	威一郎・長女	筑波大学名誉教授の夫人
	友紀夫	威一郎・長男	総理大臣
	邦夫	威一郎・次男	文部大臣、労働大臣、法務大臣、総務大臣

**(2) 鳥尾坂** 文京区関口3丁目

◆明治期 旧関口町92番地に鳥尾小弥太(陸軍軍人・貴族院議員・子爵)が住んでいた。西側の鉄砲坂は人力車にしても急坂すぎたので、鳥尾家が私財で坂道を開いた。鉄砲坂は、江戸時代、崖を利用して鉄砲の射撃練習を行った的場(角場・大筒角場とも)であった。

◆ 地元の人々は鳥尾家に感謝の意をこめて「鳥尾坂」と名付け、坂下の左わきに坂名を刻んだ石柱を建てた。

◆ 鳥尾小弥太は、元・長州藩士。明治維新の総仕上げともいわれる、明治4年断行された「廃藩置県」(全国の藩を廃して府県を置いたこと。これにより中央集権的統一国家が確立された)の際、長州の井上馨・山県有朋らに同僚の野村靖とともに廃藩置県の必要性を説き、かつ、その下働きを行った人物。

**(3) 関口台公園** 文京区関口3丁目

◆関口台公園 江戸川の北、関口台と呼ばれる台地の東端にある公園である。敷地の約半分が急斜面から成っている。

◆この場所に、1971年(昭和46)公園になる前はマレーシア大使館が置かれた。東向き斜面に池や園路を配した日本庭園風の仕立てからすると、大使館になる以前から邸宅があったのではないかと想像される。マレーシア大使館は現在、渋谷区南平台にある。

◆4・5月、クリシマツツジ・クルメツツジ・ヒラドツツジ・キレンゲツツジ・コバノミツツジ・ケラマツツジなどが咲き誇る。

**(4) カテドラル関口教会 聖マリア大聖堂**

文京区関口3-16-15

◆カトリック教会には、教会の行政や指導のための地域的区分があり、これを「教区」と呼ぶ。日本には16の教区があるが、それぞれの責任者である司教(大司教)が儀式の際に着座する椅子をギリシャ語で「カテドラ」という。伝統的に、司教の紋章がついた赤い椅子で、この司教座のある教会を「カテドラル(司教座聖堂)」という。

◆関口教会は東京教区の司教座聖堂であり、聖マリアに捧げられたため、「東京カテドラル関口教会 聖マリア大聖堂」という。カテドラルは、教区の中心的な教会で、教区全体の行事、集会もここで行われている。

◆大聖堂の歴史 1899年(明治32)、「聖母仏語学校」の付属聖堂として建てられ、1920年(大正9)「東京大司教座聖堂」となった。

1945年(昭和20)東京大空襲により焼失するが、ドイツのケルン教区の支援によって再建設が決定。故・丹下健三氏の設計により1964年(昭和39)落成した。

◆聖フランシスコ・ザビエルの胸像 ザビエルは1549年(天文18)日本にはじめてキリスト教を伝えた。胸像はフランス国王ルイ13世の母が1642年、ドイツのケルンのイエズス会へ寄進したもの。1964年、当カテドラル大聖堂の落成にあたって、ドイツの枢機卿から寄贈された。

◆ピエタ像 「ピエタ(P I E T A)」 イタリア語で「悲哀」を意味する。キリストが人類救済のため、十字架上で死去された後、母マリアがその亡骸を膝に受けて、限りない苦難のあとを忍び、その愛を瞑想する姿を顕したものの。ミケランジェロ作の原寸レプリカである。

◆十字架形の天井 大聖堂は空から見ると、大きな十字架の形をしている。聖堂内から天井を見上げると、その形を知ることができる。

◆祭壇と十字架 祭壇はキリストによる「最後の晩餐」の食卓をかたどっている。キリスト者は、この食卓を囲み、キリストの救いの恵みにあずかるためミサ聖祭を行う。背面から大理石を通して柔らかな光が差し込む十字架は、キリストによる救いを象徴する。高さ16メートル。

◆マリア祭壇 マリアはキリストの母。キリストは自分の母を、すべての人の心の母としてあたえたのだ。

◆パイプオルガン 教会用のパイプオルガンとしては日本最大。2004年、献堂40周年記念の年に新設された。イタリア製。

◆鐘塔 4つ鐘はドイツから輸入された。制作者は日本各地の鐘の音色を研究し、日本的な音色を出すよう努めたという。

◆ルルドの洞窟 フランスの片田舎ルルドの洞窟に聖母マリアが現れるという奇跡が起

こり、世界的な巡礼地となった、マリアへの信仰のために、そっくりに作られた祈りの場所である。1911年(明治44)、フランス人宣教師ドマンジェル神父によって建てられた。

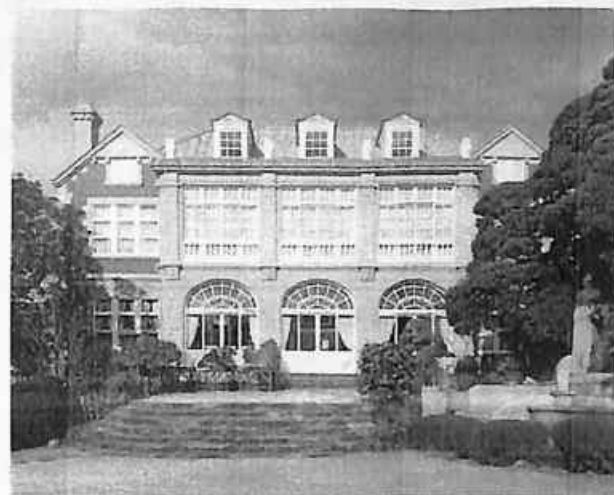
(5) 関口芭蕉庵 文京区関口2-11-3

◆「芭蕉庵」 1677年から3年間(4年間とも)神田上水の改修工事にかかわり、この地の水番屋に住んだといわれている。後に芭蕉を慕う人々により「龍隠庵」(りゅうげあん)という家が建てられた。現存の建屋は戦後に建てられたもの。

◆井本教授見解 「このころ、江戸小石川の水道工事の事務を手伝った形跡があるが、江戸に出てきて以来、世話になった本船町の名主小沢太郎兵衛(俳号ト尺)の依頼によるもので、ときおり手伝う程度のアルバイトであったと思われる」。現代芭蕉研究の第一人者といわれる故・井本農一先生が書いておられる(『人物日本の歴史』12「元禄の時代」)。

◆芭蕉年譜

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 寛永21年(1644) 1歳  | 伊賀上野、または柘植に、与左衛門の次男として誕生。  |
| 明暦2年(1656) 13歳  | 父与左衛門没す。   |
| 寛文2年(1662) 19歳  | 上野藩士の息藤堂良忠に出仕、宗房を名乗る。<br>◎20歳の句「月ぞしるべ/こなたへ入(いら)せ/旅の宿<br>当時、言葉のおかしみを主として機知・滑稽を狙いとした「松永貞徳の俳諧」がほとんどだった。 |
| 寛文6年(1666) 23歳  | 良忠没す。兄半左衛門のもとに身を寄せる。   |
| 寛文12年(1672) 29歳 | 伊賀上野天満宮に30番発句合『貝おほひ』奉納。のち江戸に下る。<br>◎貞門俳諧を「古風」として排斥し、「新風」に帰するようになる。新風はのちに「談林俳諧」とよばれる。                 |
| 延宝3年(1675) 32歳  | 俳号を「宗房」から、「桃青」に改める。  |
| 延宝5年(1677) 34歳  | 江戸小石川の水道工事の事務に関係する。春、俳諧宗匠となる。<br>◎江戸で出版される主要俳書のほとんどが芭蕉の句をほとんど掲載するようになった。<br>「阿蘭陀も/花に来にけり/馬に鞍」        |
| 延宝8年(1680) 37歳  | 宗匠をやめ、深川に引退して隠者となる。<br>◎「枯枝に/鳥のとまりたるや/秋の暮」<br>自らの生活を、脱俗・脱社会の立場に置かなければならないと考え始めたと言われる。                |
| 天和2年(1682) 39歳  | 『武蔵曲』に芭蕉号初見。年末、深川の草庵類焼。甲府地方に流浪。<br>◎「芭蕉野分して/盃に雨を/聞く夜哉」<br>内心の不安と自信も見え始めたか。                           |
| 貞享元年(1684) 41歳  | 門人苗村千里を同伴、『野ざらし紀行』の旅に出る。   |
| 貞享4年(1687) 44歳  | 『笈の小文』の旅に出る。<br>◎「古池や蛙飛びこむ水の音」<br>門人も増え、俳諧の創始者として名声は上がっていく。  |
| 元禄元年(1688) 45歳  | 近畿・東海地方を旅し、江戸への帰路、『更科紀行』の旅をする。   |
| 元禄2年(1689) 46歳  | 門人曾良を同伴して『奥の細道』の旅に出る。<br>◎「荒海や佐渡に横たふ天の川」<br>旅中に「不易流行論」-新しみ・軽みを追求し始める。                                |
| 元禄3年(1690) 47歳  | しばらく近江・石山の幻住庵にこもる。『幻住庵ノ記』を書く。  |
| 元禄4年(1691) 48歳  | しばらく洛北嵯峨・落柿舎で『嵯峨日記』を書く。『猿蓑』成る。   |
| 元禄7年(1694) 51歳  | 10月12日、大阪に没す。近江国・義仲寺に葬られる。<br>次は、逝去の4日前に詠んだ句である。<br>◎「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」」<br>没したのは、小春日和の穏やかな日であったという。   |



鳩山会館(東京都文京区)

東京カテドラル



地上から見上げるだけでは、キリスト教の教会であるとは思えない外観ですが、上空から見るとキリスト教の教会である「十字架」を象徴しているため、一目でキリスト教の教会であると分かることが出来ます。



サンルーム

脳梗塞の症状からひとまず回復した一郎(右)を音羽御殿に訪ねて歓談する吉田茂(1952~1954年頃)

同内部



関口台公園



鳥尾坂



江戸時代の関口芭蕉庵



蕉村筆・芭蕉翁